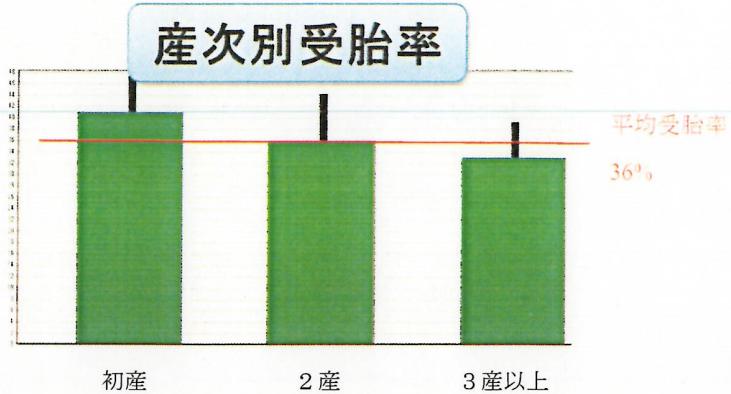


## ～ さまざまな受胎率をモニターする ～

自身の農場の受胎率は把握できていますか？受胎率を上げることは一朝一夕ではいかないことが多いですが、自分の牧場の特徴を知ることで対策を練ることができます。この現在の受胎率が高い、低いを論ずるよりもどのタイミングの授精の受胎率が高いのか、もしくは低いのかを把握して、少しでも受胎率を上昇できるようにしてみましょう。

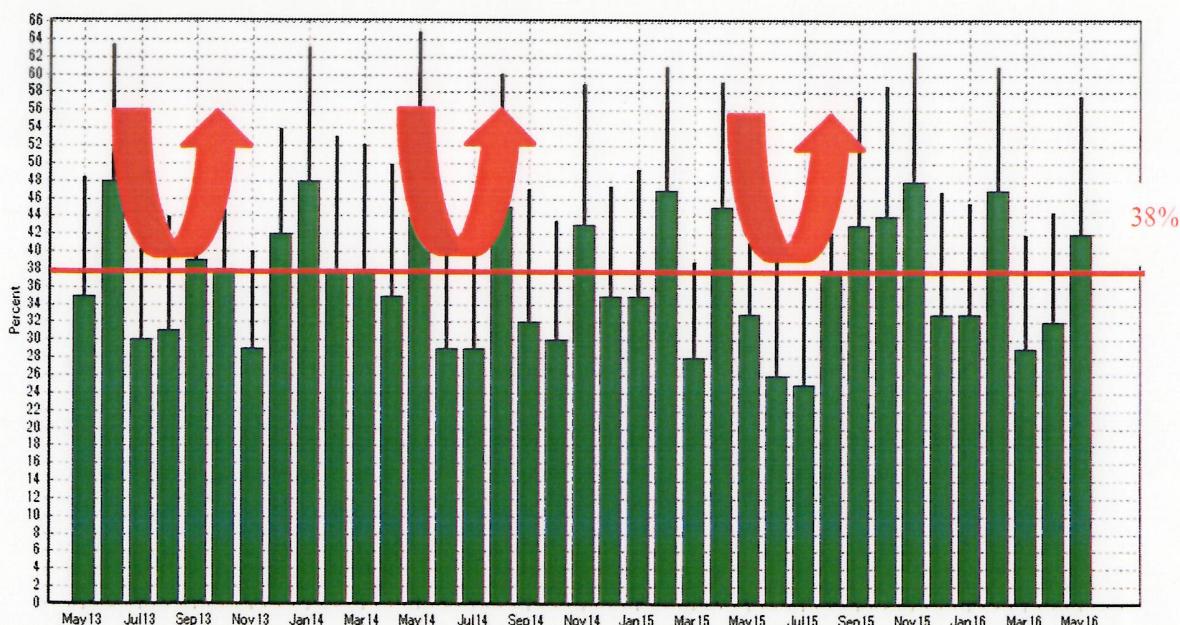
### ● 産次別受胎率

まずは産次別の受胎率を見てみます。通常初産の方が2産より、2産の方が3産以上牛よりも受胎率が高く、産次を追うごとに受胎率が低下していくことがほとんどの農場での傾向です。これが特に初産牛の受胎率が経産牛よりも劣るようでは初産のマネジメントや育成の管理に非常に大きな問題を抱えている可能性があります。また、3産以上の牛の受胎率が初産2産に比べて極端に低いことも移行期や周産期の管理に問題があると言えるでしょう。



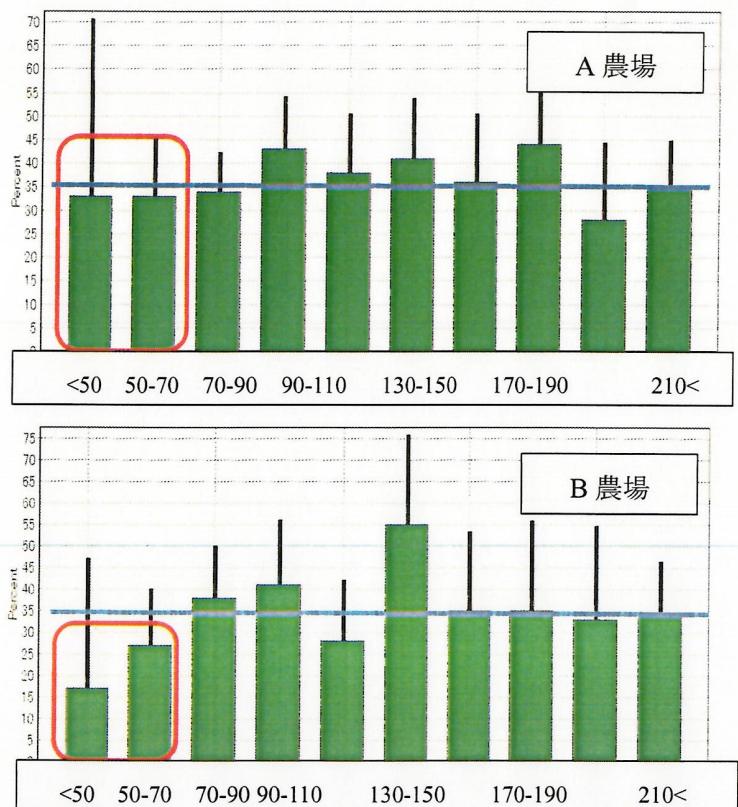
### ● 月別受胎率

月ごとの受胎率のモニターはその年の季節の変動や、そのとき食べさせているエサの出来などにも左右されるので結果論になりがちですが、下図のように毎年夏に受胎率を落とし、暑熱対策に課題があるような農場や、春先や秋口などの季節の変わり目に受胎率を落とす農場も見受けられます。1年の傾向がつかめると対策も立てられるので一度チェックしても良いでしょう。



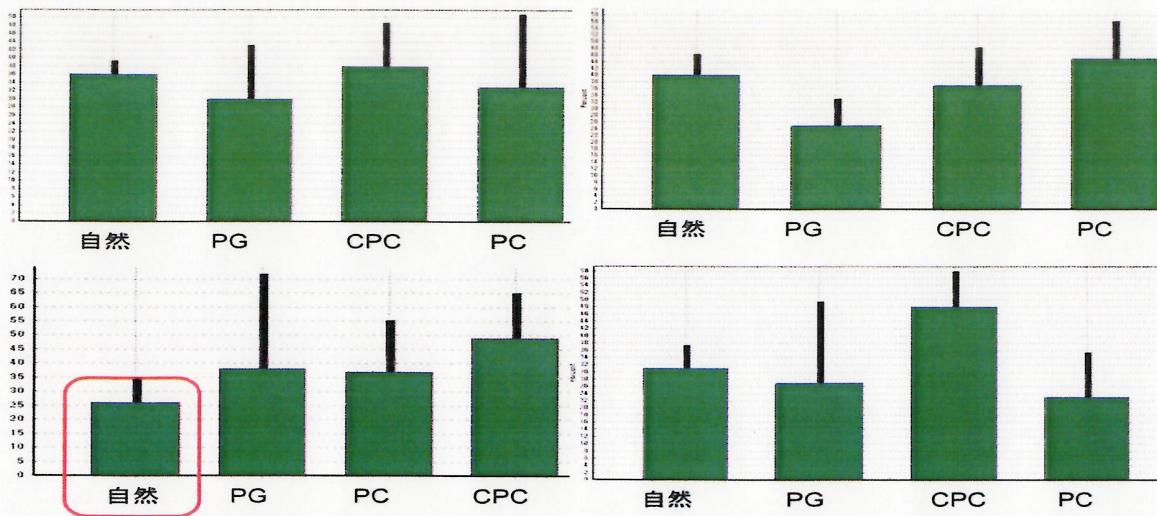
## ● 授精回数別受胎率と搾乳日数別受胎率

右図は各 DIM における受胎率のグラフになります。A 農場・B 農場とも農場の平均受胎率は 35% ですが、その内実は異なります。A 農場では分娩後、発情がきて授精されたものは DIM が短くても農場の平均受胎率と変わらない受胎率を達成できているのに対し、B 農場は DIM 70 日までの受胎率が平均に比べて著しく低いことがわかります。これも移行期や周産期病の管理改善で DIM が短くても高い受胎率を達成できる可能性があります。特に分娩前後でボディコンディションを大きく落としてしまっている農場や乾乳期の栄養管理に問題がある農場の場合にこのような傾向が見受けられます。



## ● ホルモン処置別受胎率

ホルモン処置ごとの受胎率も農場によってまちまちです。オブシンク (CPC) がとにかくよく受胎する農場もあればショートシンク (PC) の受胎率が良好な農場もあります。ホルモン処置は基本的には自然発情の受胎率と同程度の受胎率が確保できていれば十分です。各農場にフィットするホルモン処置を見つけて自然発情の取りこぼしは速やかにホルモン処置で次の授精につなげられると良いでしょう。また、ホルモン処置と比べて自然発情の受胎率が著しく低い農場もあります。これは自然発情の授精のタイミングがずれていったり、発情発見の正確性に問題があったりするので、可能であれば授精後、授精師さんに排卵確認をしていただいたりすると良いかもしれません。



このように一口に受胎率と言っても様々な切り口で解析することで農場で問題になっている授精方法が判明することができます。少しの工夫で受胎率を向上でき、農場の繁殖成績を改善させる可能性があるので、今一度これまでの農場の受胎率の傾向を見直してみてはいかがでしょう？